


## 1. エクセル立ち上げた時の注意事項

謡曲詞章検索用簡易データベースをダウンロードして本ファイルを立ち上げた時、二種類の警告が出る可能性があります。警告が出た時は以下の対応をお願いします。

①「検索画面」等のコマンドボタンを押すとエクセルのマクロが実行される設定ですが、マイクロソフトのシステムはファイルの安全性が確認できないときはマクロの動作をブロックします。

警告画面例

 セキュリティリスク このファイルのソースが信頼されていないので、Microsoftはマクロの実行をブロックしています。

本ファイルは安全ですので下記のように設定をお願いします。

エクセルを一旦閉じて、ファイルのアイコン(又はファイル名)上で右クリックをし、ファイルのプロパティを開きます。「全般」タブの下には、「このファイルは他のコンピュータから取得したものです。このコンピュータを保護するため、このファイルへのアクセスはブロックされる可能性があります。」という表示があり、その横の「許可する」にチェックを入れてOKを押すとブロックが解除されます。

②本ファイルを起動させたとき、マクロ無効の警告が出る場合があります。

警告画面例

 セキュリティの警告 マクロが無効にされました。

「コンテンツの有効化」を選択して、ファイルを上書き保存してください。

## 2. データベース機能概要

- ・ 謡曲の詞章の一部を入力することで、その言葉を含む謡曲名および句を検索できます。ただし、検索は詞章の部分のみを対象としています。
- ・ 入力は最大二語。その二語は、「または(OR)」か「かつ(AND)」の関係で検索できます。
- ・ 検索された複数の句から、一つ選択して、曲全体の詞章を表示することができます。
- ・ 上記操作で曲全体を表示した後、再び先ほどの検索結果一覧に戻ることもできます。

## 3. エクセルの構成

- ・1行目:操作コマンド 「検索画面」「検索結果に戻る」「選択詞章へ移動」「初期画面に戻る」
- ・2行目 E 列:三種類の詞章の底本等の諸情報

- ① 謡曲三百五十番集 (曲名に<T>と記載、底本のデジタルデータ「半魚文庫」をベースに構築) 底本 日本名著全集『謡曲三百五十番集』、赤尾照文堂『謡曲二百五十番集』
- ②江戸期版行五百番謡本 (曲名に(元和卯月本、明暦野田本、三百番外、四百番外、五百番外)と記載) (底本のデジタルデータは能研の研究活動の成果から引用)
- ③ 底本『謡曲評釈』(曲名に<M>と記載、底本のデジタルデータは「無辺光」をベースに構築)

- ・A 列: 曲名と底本情報 ①<T 曲名> ②曲名(底本) ③<M 曲名>
- ・B 列: 構成(段)番号(一部の曲には、古典大系等の謡曲集から段番号を転記しています)
- ・C 列: 小段の名称等 (①は C 例と D 列に分けて記載。②③は C 列に合わせて記載)
- ・D 列: シテ、ワキなど役名等 (①のみ)
- ・E 列: 詞章 (検索対象)
- ・F 列: 底本のページ

#### 4. コマンドの説明

- ・「検索画面」: 検索入力画面が表示されます。
- ・「検索結果に戻る」: 「検索画面」で得られた検索結果の一覧に戻ることができます。
- ・「選択詞章へ移動」: 検索結果一覧からひとつの句(一行)を選択して、このコマンドを行えば選択した句(一行)を含む曲の詞章全体を表示することができます。
- ・「初期画面に戻る」: エクセルの先頭に戻り、初期画面が表示されます。

#### 5. 検索入力画面の説明

- ・文字入力枠: ニか所あり、異なる文字列を入れることができます。一か所のみ入れるときは上段に入れてください。下段だけ文字列を入れた時は、検索できない場合があります。入力枠の初期設定は日本語入力モードです。
- ・ニか所の文字列の関係として「または(OR)」か「かつ(AND)」をボタンで設定できます。どちらも選択されていない場合は「または(OR)」となります。
- ・「または(OR)」の時は、二つの文字列のどちらかが含まれる句(行)が検索できます。同じ言葉でも、複数の表記が想定されるときなどで有効に使えます。
- ・「かつ(AND)」の時は、二つの文字列の両方が含まれる句(行)が検索できます。一つの文字列で多くの検索結果が出た時、第二の文字列で絞り込むことができます。

#### 6. 操作画面例

##### ・Step1 初期画面

	A	B	C	D	E	F
1		謡曲データベース	Ver4.3		<input type="button" value="検索画面"/> <input type="button" value="検索結果に戻る"/> <input type="button" value="選択詞章へ移動"/> <input type="button" value="初期画面に戻る"/>	
2		曲名	構成番号 小段名、他	役名、他	諸情報と詞章 ①謡曲三百五十番集 (曲名に<T>と記載、底本のデジタルデータ「半魚文庫」をベースに構築) 底本 日本名著名全集「謡曲三百五十番集」、赤尾照文室「謡曲二百五十番集」 ②江戸期旅行五百番謡本 (曲名に<I>元和卯月本、明彦野田本、三百番外、四百番外、五百番外と記載) (底本のデジタルデータは総研の研究活動の成果から引用) ③底本「謡曲評釈」(曲名に<M>と記載、底本のデジタルデータは「無辺光」をベースに構築)	底本ページ
3	<T 翁>				<T 翁> <N 1> <K 季不定> <A シテ> 野翁 <A ツレ> 千歳 <A 狂言> 三番目 <S 赤尾>	
11	<初日>		翁	どうへたりへら、たたりあがりりりとう、		
12			地	ちりやたりたりら、たたりあがりりりとう、		
13			翁	廻千代までおはしませ、		
14			地	我等も千歳まむらふ、		
15			翁	鶴と亀との顔にて、		
16			地	幸ひ心に任せたり、		
17			翁	どうへたりへら、		
18			地	ちりやたりたりら、たたりあがりりりとう、		
19			千歳	鳴るは瀬の水、日は照るとも、		
20			地	抱えずとつたりありつとつとう、		
21			千歳	抱えずとつたり常にとうたり、		
22			千歳之舞			
23			千歳	廻千代までおはしませ、		
24			地	我等も千歳まむらふ、		
25			千歳	鶴と亀との顔にて、廻は久しく栄え給ふべしや、鶴は千代経る君は如何経る、		

・Step2 検索文字の入力:「検索画面」ボタンを押して、入力画面をだす。検索文字として仮に「無常」と「老い」を入れて、「検索」ボタンを押す。

①「検索画面」ボタン

②キーワード入力

③検索ボタン

・Step3 検索結果:「無常」又は「老い」を含む句が選択されて表示される。

	A	B	C	D	E	F
1		謡曲データベース	Ver4.3		検索画面 検索結果に戻る 選択詞章へ移動 初期画面に戻る	
202	<T 翁>	右			老いせぬ楽なるかも。	
1552	<T 通明寺>		シテ詞		仰は重く候へども、既に名にだに白木夫が、星體種老いが身の、役をば許し給ふべし。	
1841	<T 賀茂>		地		誰も知れ老いらくの、暮るゝも同じ程なさ今日の日も夢の現そと、うつろふ影は有りながら、濁なくそ水むすぶの神の塵、淡まうよ神の御慮淡まうよ。	
2406	<T 玉井>	サシ	シテ		濁なき心の水の泉まで、老いせぬ齢を淡みて知る。	
2407	<T 翁>		二人		業の水の故なれや、老いせぬ門に出て入るや、月日曇らぬ久方の天にもますや此国の、行末速き、住居かな。	<P 85c>
2938	<T 実盛>	サシ			飛花落葉の無常は又、常住不滅の栄をなし、一色一番の緑生は、無非中道の眼に応ず、人間偈々円成の観念、なほ以て至り難し、あら定めな身命やな。	<P 104c>
3471	<T 井筒>		シテ詞		これは思ひもよぬ御かな、もとより所は天さかる、鄙人なれば人がまじやな名もあらばこそ名告もせめ、只上人の御下向、ひとへに弥陀の来迎なれば、かしこぞ長生して、此称名の時節にあふ事、盲亀の浮木、優曇華の花待ち得たる心地して、老いの幸身に越え、悦の涙袂に余る。されば此身ながら、安楽園に生るゝかと、無比の歡喜をなす所に、輪廻妄執の閑浮の名を、又あらためて名のらん事、口惜しうこそ候へとよ。	
3924	<T 芭蕉>		地歌		名ばかりは、在原寺の節旧りて、／＼、松も老いたる塚の草、これこそそれよてき節の、一村すすきの穂に出づるはいつの名残なるらん、草花々として露深々と古塚の、真なるかな古の、跡なつかしき景色かな／＼。	
3954	<T 芭蕉>		シテ		老いにけるそや。	
4252	<T 墨染桜>		地		恥かしや椿るさの、道さやかに照る月の、影はさながら庭の面の雪の中の芭蕉の、いつはれる姿の真を見えは如何ならんと、思へば鐘の聲、踏行無常となりけり／＼。	<P 159c>
4325	<T 定家>	クセ			かほどめでたき花の徳、誰かは御がさるべき、中にもこの桜は、旧院の御變木、花の新に開けし日は、初階閣ふ御顔も歌ばせおはしまし鳥の老いて椿る時、薄暮もれる御気色、無常の嵐吹き来り、花より先に散り給ふ、心なき草木も、敷の色に出でざらん、此春ばかり墨染に咲けとの詠は恥かしや。	<P 162b>
4696	<T 小堀>	一セイ	シテ		古事も今の身も、夢も現も、幻も、共に無常の世となりて節も残らず、何なか／＼の草の蔭、さらば僅の宿ならで、外はつれなき定家かつら、これ見給へや御僧。	
5038					しをりて、花をかざしの袖ながら、老木の葉と、人や見ん、年ふれば齢は老いぬしかはあれど、花を見れば物思ひも、なしとよみしも身の上に、今日雪を戴くまで、光にあたる春の日の、長閑けき御代の時なれや。	<P 189b>

・Step4 選択句(例「井筒」)から詞章本体へ移動:「選択詞章へ移動」ボタンで移動

①セルを選択

②「選択詞章へ移動」ボタン

・Step5 詞章全体の表示: 選択された句を先頭に「井筒」の詞章を表示

No.	A B C			D E				F
	謡曲データベース	Ver4.3	検索画面	検索結果に戻る	選択詞章へ移動	初期画面に戻る		
1	曲名	構成番号 小段名、他	役名、他	語情報と詞章 ① 謡曲三百五十番集 (曲名に「T」と記載。底本のデジタルデータ「半魚文庫」をベースに構築) 底本 日本名著全集『謡曲三百五十番集』 赤尾照文堂『謡曲二百五十番集』 ② 江戸期版行五百番謡本 (曲名に「元和卯月本 明暦野田本、三百番外、四百番外、五百番外」と記載) (底本のデジタルデータは能研の研究活動の成果から引用) ③ 底本『謡曲評釈』 (曲名に「ゆ」と記載。底本のデジタルデータは「無辺光」をベースに構築)	基本ページ			
2			地歌	名ばかりは、在原寺の跡旧りて、へ、松も老いたる塚の草、これこそそれよ亡き跡の、一村すずきの穂に出づるはいつの名残なるらん、草花々として露深々と古塚の、真なるかな古の、跡なつかしき景色かな、				
3924			ワキ調	なほ、へ、兼平の御事察しく御物語り候へ、				
3925		4	地	昔在原の中符、年経てこいそいその上、ふりにし里も花の春、月の秋とて、住み給ひしに、				
			シテ	其頃は紀の有常が娘と契り、妹背の心浅からざりしに、				
			地	文河内の国高安の里に、知る人ありて二道に、忍びて通ひ給ひしに、				
			シテ	風ふけば沖つ白波立田山、				
			地	夜半には君かひとり行くらんとおぼつか波の夜、ゆくへを思ふ心遠げてよその契りはかれ%なり、	<P 147>			
			シテ	げに情知る、うまたかの、				
3931			地	あはれを述べしも理なり、				
3932		クセ		昔この国に、住む人の有りけるが、宿をならべて門の前、井筒によりてうなる子の、友達たたらひて、互に影を水鏡、面ならべ袖を懸け、心の水も底ひなく、うつる月日も重なりて、おとなく恥ぢがはしく、たがひに今はなりけり、其後のまめ男、言葉の露の玉章の、心の花も色そひて、				
3933			シテ	筒井筒、井筒に懸けしまるが又、				
3934			地	生ひしにけりしな、妹見ざる間にと詠みて舞ひける程に、その時女もくらべこし振分髪も肩過ぎぬ、君ならずして、誰かあくべきと互に詠みし故なれや、筒井筒の女とも、聞えしは有常が、跡の旧き名なるべし、				

井筒の詞章

- ・「検索結果に戻る」ボタンで Step3の画面に戻る。
- ・「初期画面に戻る」ボタンで Step1 の画面に戻る。

6. データベースの底本について

①底本 日本名著全集『謡曲三百五十番集』、赤尾照文堂『謡曲二百五十番集』

・デジタルデータ 半魚文庫の UTAI を参照させていただきました。

<http://hangyo.sakura.ne.jp/utahi/>

本デジタルデータは、金沢美術工芸大学 美術工芸学部 高橋明彦 教授が提唱した能の詞章をデジタル化するプロジェクトに多数のメンバーが参加して、完成したものです。デジタル入力されたプロジェクトメンバーに感謝いたします。

②江戸期版行五百番謡本 (能研の詞章公開情報参照)

底本: 元和卯月本(後藤淑氏他編『元和卯月本謡曲百番』(笠間書院、1977 年))、明暦野田本(法政大学能楽研究所蔵本)、三百番本(貞享三年九月林和泉掾刊本)、四百番本(元禄二年正月林和泉掾刊本)、五百番本(元禄三年六月山本長兵衛刊本(法政大学鴻山文庫五 234)他)

③底本 『謡曲評釈』

・デジタルデータ 無辺光(能楽堂に通う人の謡曲図書館)を参照させていただきました。

<https://muhenko.com/index.htm#shisho>

本 HP の運営及び翻刻に携わった方々に感謝いたします。

以上